

COC教育部門活動報告：ふくい地域創生士認定制度  
に求められるもの

メタデータ	言語: ja 出版者: 福井大学高等教育推進センター 公開日: 2024-06-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小嶋, 啓介 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10098/0002000297">http://hdl.handle.net/10098/0002000297</a>

## COC 教育部門活動報告

### ふくい地域創生士認定制度に求められるもの

小嶋 啓介

(地域貢献担当学長補佐, ふくい地域創生士検討部会部会長)

#### 1. ふくい地域創生士の現状と課題

ふくい地域創生士の認定制度は、平成 28 年の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が始まり、平成 30 年度から認定が開始されている。平成元年の授業終了後は、ふくいアカデミックアライアンス(FAA)が事業を継承している。2021 年には福井県の呼びかけの下、県内の全ての高等教育機関と自治体・産業界・医療界・金融界等が一体となり、地域社会の維持発展を図る取組みを推進するため、産学官医金による連携組織「未来協働プラットフォームふくい」が設立され、FAAは同プラットフォームのメンバーとして地域志向科目の共同開講とふくい地域創生士の認定を担っているというのが現状である。

ふくい地域創生士として求められる知識・能力は、①地域の自然・社会環境に関する基礎知識、②地域の課題に向き合い包括的専門知識を応用し解決に繋げようとする素養、③地域の職業現場・産業界の現状理解と高度専門職業人としての目的意識である。推薦要件は所定の指定科目を 12 単位取得し、地域でのインターンシップ等に参加した優秀な学生であり、学部ごとに対象となる専門科目等を設定している。平成 30 年度からは、研究成果や地域での連携活動で、地域貢献に資する顕著な成果等を表彰するふくい地域創生アワードの制度も実施している。表 1 はふくい地域創生士認定数とアワード表彰者数の推移であり、令和 4 年度までに累計 380 人(内本学 252 人)が認定され、直近 2 年の調査では約 70%が県内に定着している。しかしながら、同制度の認知度は、学生ならびに産業界ともに低いのが現状である。創生士の周知のため、大学入門セミナーの授業、3 年次後期の申請時期に合わせた説明・依頼を行っているが、残念ながら学生の取得意欲は低く、採用企業と学生双方から認知されるよう、多角的な広報の強化が不可欠と思われる。認定制度の改善のため、地域連携推進本部では、学生・企業に対するアンケート等を実施してきており、以下にその概要を示す。

表 1 ふくい地域創生士認定とふくい地域創生アワード表彰者数の推移

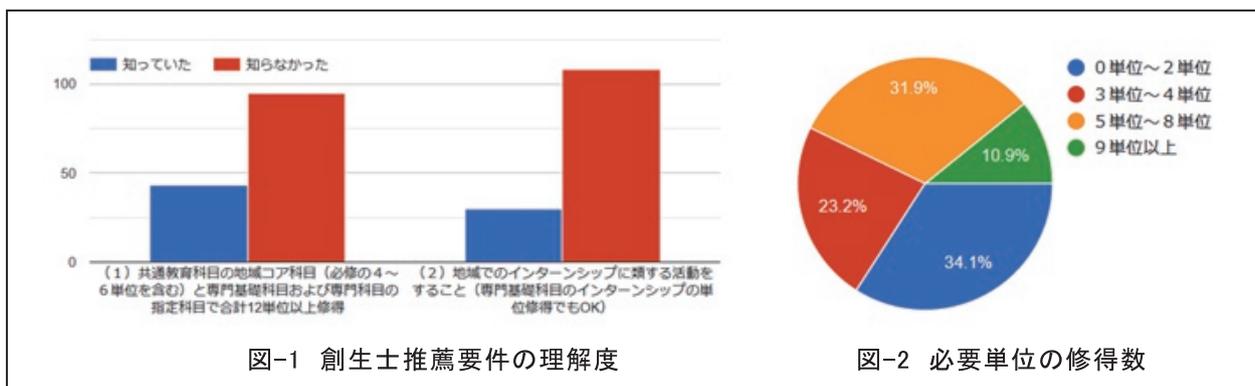
	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	累計
ふくい地域創生士	50	75	81	55	54	65	380
うち福井大学	31	57	60	39	33	32	252
ふくい地域創生アワード	-	4	7	11	5	10	37
うち福井大学	-	3	3	3	2	3	14

#### 2. ふくい地域創生士に関するアンケート

##### (1) 令和 2 年度工学部学生アンケート

令和 2 年度には、工学部学生の創生士認定数が 1 名と極端に少なかったことから、工学部 3 年生を対象とし、制度の認知度調査と要件の周知を兼ねたアンケートを行った。アンケートの時期は、必要科目の受講と申請の契機となることを狙い後期開始直前とした。オンライン形式で実施した有効回答数は 138 で、回答割合は残念ながら 26%程度と低かった。以下に説明事項を省略した設問内容と回答結果を示す。

- Q1: ふくい地域創生士を知っていたか      Q2: 地域創生士の認定要件を知っていたか      Q3: 必要単位の修得状況  
 Q4: インターンシップに類する活動としての、PBL授業や自治体との連携活動で、受講・参加したい取り組みはあるか  
 Q5: 「地域創生アワード」の表彰制度を知っていたか



Q 1 の制度の認知度は50.7%であり、約半数の学生は制度自体を知らないことがわかった。図-1はQ 2の申請要件の認知度の回答者数であり、科目要件で約3割、インターンシップ要件は約2割と非常に低い結果であった。図-2はQ 3の3年後期開始時点で創生士取得に必要な残存単位数であり、2単位以下が約1/3、4単位以下で約6割と、科目要件については多くの学生がクリアできる可能性が高いことが確認でき、工学部学生であっても、科目要件の壁は高くないことを示している。Q 4は令和3年度にインターンシップ要件に組み入れた「FAA学ぶなら福井！応援事業」に関するPBLに関する関心についての問であり、約45%の学生が参加したい取り組みがあると回答しており、地域志向と実践力養成の場としてのPBLに期待ができる結果であった。Q 5のふくい地域創生アワードの認知度は、約14%と非常に低く、アワード受賞者の活動内容の発表の場を広く設定するなど、てこ入れが必要であることが確認できた。

## (2) 令和4年度ふくい地域創生士認定者アンケート

令和4年度には、創生士を取得した学生(福井大学14名、県立大学17名、仁愛大学6名)の認識を確認するために、認定式終了後にアンケートを実施した。以下は、説明等を一部省略したアンケート内容である。

Q1: 所属大学(福井大学14名、県立大学17名、仁愛大学6名)、 Q2: 取得過程で学んだことで強く印象に残っていることと、それによって得られたと思われるものは何か、 Q3: 取得促進に、どのような手段が有効だと思うか、 Q4: 創生士を取得する過程で学ぶことを通じて、「福井や地元貢献すること」を意識することにつながっていると思われるか、 Q5: 創生士のメリットとしてどのようなことがあるか、 Q6: 福井や地方での就職者を増やすためのアイデアは?、 Q7: ふくい地域創生士を目指す、後輩たちに一言

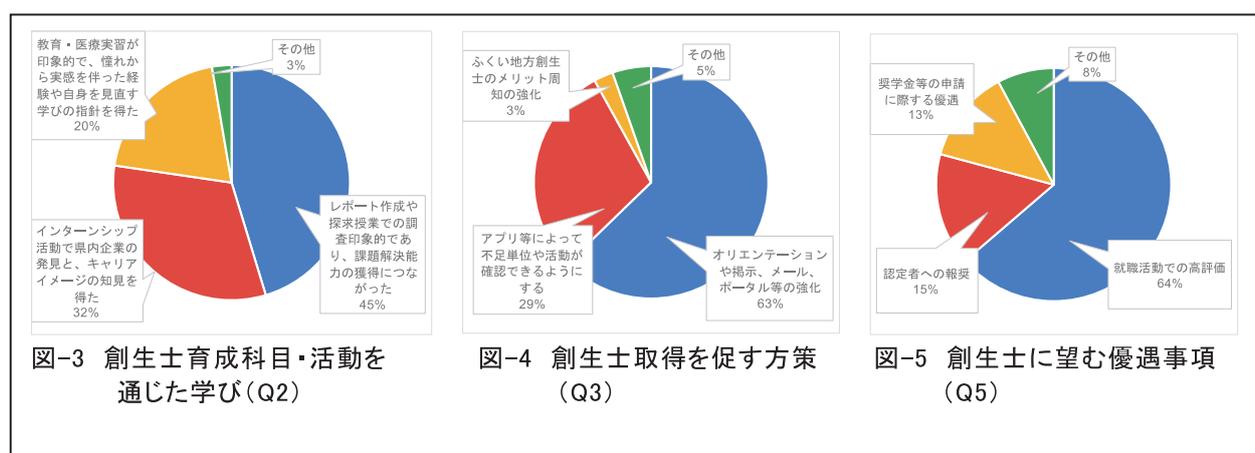


図-3はQ 2の回答であり、課題解決力の育成(45%)、県内企業発見とキャリアイメージの醸成(32%)など、創生士育成の狙いに合致する回答が得られた。また、図-4は創生士を学生に周知し取得を促す方策についての結果であり、オリエンテーションや掲示・メールでの周知強化に続いて、学生ポータル等で不足単位などの情報を確認できるようにすることを選択する学生が82%を占め

た。また、創生士として優遇して欲しいことについては、図-5 に示すとおり、本来の狙いである就職活動で高評価を期待する声が 2/3 を占めた。この他、Q 4 の創生士取得過程で学ぶことで「福井や地元貢献すること」を意識することにつながっていると思われるかについては、全員が意識したと回答した。

Q 6 の福井や地方での就職者を増やす具体的な方策としては、福井や地元企業の良さや県内企業就職のメリットの周知、定着支援金や奨学金返還免除制度の創設、県内企業情報提供手段の改善、等の意見が収集された。Q 7 の創生士取得を目指す学生への一言としては「自分が将来地元のために何ができるか、どういった面で役立てるかを模索することがより大事なので、勉強を頑張ると同時にこれからの自分、地域についても考えるようにして行って下さい」、「創生士を取得する過程で、福井に対する理解が深まっていきます。ES などにも書けるのも大きなメリットだと思います」のように、真摯なアドバイスが得られた。以上のことから、少なくとも取得者については、創生士育成プログラムは概ね妥当なもの判断できるが、取得者へのメリット拡大が必要と思われる。

### (3) ふくい地域創生士に関する全学学生アンケート

令和 5 年度に、F A A においてふくい地域創生士の制度改善の必要性が指摘され、参加大学から課題の聞き取りと改善案の提示がされている。本学では、「ふくい地域創生士検討部会」を設けて、議論の方向性、創生士のあるべき姿などを議論してきたが、その中で学生の意識を把握するために全学アンケートを行うことを決定し、学生ポータルを通して全学学生を対象としたアンケートを行った。以下に、アンケート内容の概略を示す。

- ①: 学部 ②: 学年 ③: 出身地(福井県かそれ以外か) ④: 心情・状況に最も近いものは(大学院進学希望、県内就職希望、地域社会に貢献したい、多くの資格を取りたい、高い社会的地位を得たい) ⑤: 現在、どの程度、熱意を持って大学での学業に取り組んでいるか ⑥: ふくい地域創生士の制度をどの程度知っていたか ⑦: ふくい地域創生士制度の構成科目等について、どの程度知っていたか ⑧: 標準的な履修状況であれば難なく取得できると思うか Q⑨: どの程度魅力的か、⑩0: 今年度から学生ポータルの成績参照画面で創生士の認定要件の達成状況が確認できるようになったことを知っているか ⑪: 創生士に対する認識について、最も近いものは(福井県以外の地域で活躍するために有効、企業活動を知るために有効、課題解決能力を養うのに有効、視野を広げるために有効、人脈を広げるために有効、取得した場合自己肯定感が上がる、就職活動に有利) ⑫: 創生士を魅力的な制度にするために必要なことの見解(自由記述) ⑬: 創生士認定を受けることを希望するか ⑭: 認定を受けない理由・事情・制約等があれば教えて ⑮: 前問の回内容等が改善され、創生士が魅力的なものになれば、認定を受けたいと思うか。

以下に分析結果を示すが、有効回答数 138 名と全学の 3% 程度に留まり、創生士に興味がある、あるいは比較的真面目な学生による意見を反映している可能性があることを指摘しておく必要があると思われる。表 2 の数値化平均は 5 段階評価(5 が最上位)であり、相関係数は⑨の創生士の魅力度とその他の質問項目との相関を示している。地創士の魅力度に対して、「⑧科目構成の認知」、「⑪福井県以外で活躍するために有効」の 2 項目では相関が高いにもかかわらず平均が低いことから、構成科目の認知を向上させること、福井県以外でも活用できるような仕組みづくりが必要であると考えられる。また大学院進学希望者との相関は低く、進学者へのアピールも重要であることがわかる。表 3 は福井県出身とそれ以外で再度分析した結果である。県内出身者は地創士に魅力を感じており、多くの項目で魅力度との相関が高い一方、⑩の福井県以外で活躍するために有効への期待が低く相関が高いので、この項目の強化は魅力度向上に繋がる。一方、県外出身者は、地創士の魅力

表 2 創生士の魅力度とその他の質問項目との相関

	n=138	数値化平均	相関係数
地創士は魅力的か		3.26	1.00
① [大学院に進学したい]		2.56	0.02
② [福井県で就職したい]		3.38	0.33
③ [地域社会に貢献したい]		4.00	0.43 *
④ [多くの資格を取りたい]		3.72	0.29 **
⑤ [高い社会的地位を得たい]		3.54	0.22 *
⑥ 熱意を持って大学での学業に取り組んでいるか		3.70	0.01
⑦ 地創士制度の理念・意義について知っているか		2.93	0.39 **
⑧ 地創士制度の構成科目等について、知っているか		2.82	0.44
⑨ 地創士は、標準的な履修状況で難なく取得できると思うか		3.90	0.29
⑩ [地創士は、福井県のことを知るために有効]		3.76	0.40 **
⑪ [地創士は、福井県以外の地域で活躍するために有効]		2.74	0.41 **
⑫ [地創士は、企業活動を知るために有効]		3.44	0.39 **
⑬ [地創士は、課題解決能力を養うのに有効]		3.70	0.37 **
⑭ [地創士は、視野を広げるために有効]		3.90	0.45 **
⑮ [地創士は、人脈を広げるために有効]		3.49	0.35 **
⑯ [地創士を取得した場合、自己肯定感が上がる]		3.28	0.58 **
⑰ [地創士は、就職活動に有利]		3.38	0.54 **
⑱ 地創士認定の希望度		3.55	0.66 **

※相関係数(r)に付した\*は5%水準有意、\*\*は1%水準有意。  
r=±0.2~0.4

3.5以上 0.4以上  
3.0未満

表 3 創生士の魅力度とその他の質問項目との相関(出身地別)

	【出身別】				【福井県での就職意向】			
	福井県 (n=92)		福井県以外 (n=47)		あり (n=66)		なし (n=41)	
	数値化平均	相関係数	数値化平均	相関係数	数値化平均	相関係数	数値化平均	相関係数
地創士は魅力的か	3.41	1.00	2.96	1.00	3.55	1.00	2.76	1.00
① [大学院に進学したい]	2.13	0.07	3.41	0.16	1.94	0.13	3.10	0.22
② [福井県で就職したい]	4.05	0.32 **	2.04	0.17	4.73	0.28 **	1.51	0.12
③ [地域社会に貢献したい]	4.11	0.44 **	3.78	0.36 **	4.36	0.42 **	3.44	0.52 **
④ [多くの資格を取りたい]	3.64	0.31 **	3.87	0.33 **	3.71	0.47 **	3.61	0.23 *
⑤ [高い社会的地位を得たい]	3.37	0.33 **	3.87	0.15	3.35	0.58 **	3.71	-0.01
⑥ 熱意を持って大学での学業に取り組んでいるか	3.67	0.06	3.74	-0.10	3.59	0.03	3.85	-0.03
⑦ 地創士制度の理念・意義について知っているか	3.04	0.41 **	2.70	0.28 **	3.15	0.39 **	2.68	0.40 **
⑧ 地創士制度の構成科目等について、知っているか	2.97	0.51 **	2.52	0.22 *	3.06	0.50 **	2.46	0.41 **
⑨ 地創士は、標準的な履修状況で難なく取得できると思うか	3.85	0.33 **	4.00	0.25 *	3.98	0.38 **	3.88	0.26 *
⑩ [地創士は、福井県のことを知るために有効]	3.74	0.48 **	3.80	0.21 *	3.79	0.48 **	3.73	0.30 **
⑪ [地創士は、福井県以外の地域で活躍するために有効]	2.85	0.40 **	2.52	0.37 **	2.95	0.31 **	2.46	0.39 **
⑫ [地創士は、企業活動を知るために有効]	3.40	0.50 **	3.52	0.16	3.53	0.37 **	3.34	0.36 **
⑬ [地創士は、課題解決能力を養うのに有効]	3.68	0.55 **	3.74	-0.06	3.83	0.45 **	3.56	0.15
⑭ [地創士は、視野を広げるために有効]	3.90	0.60 **	3.89	0.07	4.02	0.45 **	3.71	0.30 **
⑮ [地創士は、人脈を広げるために有効]	3.45	0.40 **	3.59	0.29 **	3.56	0.45 **	3.39	0.44 **
⑯ [地創士を取得した場合、自己肯定感が上がる]	3.29	0.63 **	3.24	0.50 **	3.38	0.45 **	3.05	0.58 **
⑰ [地創士は、就職活動に有利]	3.43	0.63 **	3.28	0.29 **	3.56	0.45 **	3.07	0.44 **
⑱ 地創士認定の希望度	3.68	0.66 **	3.28	0.65 **	3.71	0.45 **	3.07	0.65 **

度が 3.0 を下回っており、地創士の魅力度と相関のある項目がほとんど認められなかった。

表 2 と 3 を通じて、「⑱地創士認定の希望度」は、地創士の魅力度と直結するはずであるが相関係数は 0.66 に留まった。これは、認定要件と卒業要件がほとんど同じ学部・学科の学生の意向を反映していると思われる、魅力を感じないながら、認定は希望するという層の表れだと思われる。表 3 の右側の福井県での就職を希望する学生についてみると、地創士に魅力を感じており、多くの項目で魅力度との相関が認められる。さらに魅力度を向上させる方策としては、相関の高い「⑤高い社会的地位へのニーズ」のを目的とする学生に伝える必要があると思われる。このアンケート結果を通じて、「⑦地創士の理念・意義の認知」「⑧地創士構成科目の認知」はいずれの学生に対しても十分ではないことが明らかとなった。

### 3. ふくい地域創生士認定制度の改善の方向性について

以上のアンケート等の結果から、以下のような改善の方向性が示されたように思われる。

ふくい地域創生士の言葉は知っていても、認定に必要な地域コア科目や専門指定科目の内容、単要件等を把握していない学生が多いことから、学生への周知強化が必要である。これについては令和 5 年度から、学生ポータルに、要件と確認時点までの取得状況が明示されるように改善している。学生が創生士に最も期待する項目は、就職活動での優遇である。福井県の採用試験においては、エントリーシート資格等の欄に「ふくい地域創生士取得など」と例示されているが、他の自治体等ではこのような例はない。FAA や未来協働プラットフォームふくいでは、採用側への周知を徹底するとともに、エントリーシートや面接における優遇策を依頼していく必要があり、商工会議所等を通じた依頼は随時継続している。また、学生自身が創生士が何を学習してどのような能力を身につけたのかを理解していないため、就職活動時に使えないという現状がある。この問題に対する改善策として、申請書の改善が検討されている。具体的には、創生士が持つべき 3 つの能力が、どのような科目の学習によって育成されたかを再認識できるような書式とすること、インターンシップや地域創生活動を通じて感じた地域の課題や、身についたと実感する素養、地域の持続的発展への所信などを記述させることなどである。

福大ビジョン 2040 では、深い実践的教養を備える卓越高度専門職業人の育成を謳い、課題解決、多職種連携、数理データサイエンスの活用等を示しており、ふくい地域創生士がそのような素養を身につけた高度専門職業人の象徴となるよう制度等を改善していく必要もあるように思われる。

謝辞：2(3)のアンケートの設定と分析は経営戦略課でふくい地域創生士検討部会委員である林大剛氏にお世話になりましたので、記して感謝致します。